

[抄録様式]

<p>公益財団法人 8020 推進財団 平成 27 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録</p>
<p>1. 事業名： 長野市内における障害者福祉施設での口腔ケアの取り組み</p>
<p>2. 申請者名： 公益社団法人 長野市歯科医師会 会長 北川原穰</p>
<p>3. 実施組織： 公益社団法人 長野市歯科医師会 地域保健部（在宅・障害者担当） 社会福祉法人 長野市社会事業協会 栗田園</p>
<p>4. 事業の概要： 長野市内開設の障害者福祉施設・栗田園において、施設を利用する知的障害者に対し歯科健診及び歯科衛生士による口腔ケアを行った。お口の健康を維持するために自身の口腔内の現状を知ってもらい、口腔内診査と口腔衛生指導の他にリーフレット配布を行い、口腔ケアの重要性を啓発した。本年度は五島朋幸先生（東京都開業）をお招きし、「食べること 生きること」という演題で講演会を開催した。更に「歯を守る市民の会」を開催し、長野市歯科医師会会員による講演と歯科衛生士による口腔ケアの実習を行った。</p>
<p>5. 事業の内容： 障害者福祉施設・栗田園を利用している知的障害者 17 名に対し、平成 27 年 10 月 20 日に口腔内診査と口腔ケアを行った。同年 10 月から翌 28 年 2 月まで毎月一回歯科衛生士が口腔ケアを行い、2 月 23 日、再度口腔内診査を行った。月一回の口腔ケアでは一人一人の受診者に適した口腔衛生指導を心がけ、歯磨剤ペーストによる仕上げ磨き、フロスやタフトブラシの使い方などの指導を行った。受診者のブクブクうがいの様子を見て、再度指導・確認を行った。口腔内診査 1 回目と 2 回目の両方の口腔内診査を受けた受診者の結果のうち、歯垢・歯石の付着状態、歯肉の状態について比較検討した。</p>
<p>6. 実施後の評価（今後の課題）： 長野市栗田園の今年度の施設利用者は 35 名で、そのうち 17 名（48.6%）が口腔ケアを受けた。このような障害者施設で全員が参加することは困難であるが、35 名中 7 名が 3 年間連続で受診し、3 名が昨年と今年の 2 年間受診した。今回の口腔ケアでは、歯科衛生士がまず受診者に、良くブラッシングできているところと、磨き残しや歯肉炎があるところを丁寧に説明した。本年度が初めての利用者には「回数」に重点を置いた指導をし、「ブクブクうがい」の練習と実践の徹底を行った。3 年間口腔ケアを受けている利用者には、ブラッシングの「テクニック」も習得してもらえるように、スクラビング法によるブラッシング指導と、フロスやタフトブラシなどの補助器具の使用方法を指導した。2 回目の口腔内診査では歯垢の付着は軽減する傾向がみられ、多数の受診者は、歯肉の炎症の改善傾向を認めた。月 1 回の口腔内ケアであったが成果があったと思われる。過去 3 年を総括すると、歯垢の付着および歯肉の状態は前年および前前年比でかなり改善された。歯石の付着は、かかりつけ歯科医院を受診して歯石除去を行わないと改善されないため、3 年間変化がない利用者が多かった。障害のある人たちが豊かな生活をおくり健康度を向上させるためにも、継続的な歯科健診、口腔衛生指導の充実が不可避であると考え。このような事業を他の同様な施設でも行い、最終的には長野市の健診事業として実施されることを期待する。</p>